

**明治国際医療大学**  
**業績報告書(年報)**  
**【抜 粋】**

**令和4年度**

# 巻 頭 言

学長 勝見 泰和

平成 25 年度より発刊されてきた明治国際医療大学自己点検・評価報告書（年報）は、令和 4 年度より明治国際医療大学業績報告集（年報）という名称に変更されました。これは大学機関別認証評価による自己点検評価書と区別するためではありますが、1 年間の自己点検・評価の報告書という目標は不変であります。その意味から、1 年間の大学運営および教職員の教育・研究・社会活動などを纏めた記録であり、翌年に向けての課題の報告集とも言えます。

さて、日本の大学はユニバーサル・アクセス型の時代を迎え、質の高い教育を提供することが求められています。地方の中小大学は淘汰の時代とも言われ、教学マネジメント改革の必要性が叫ばれています。またコロナ禍では、新しい教育 DX というミッションも与えられました。すでに全国の小中学校では、GIGA スクール構想により ICT 環境整備が進んでいます。DX は教育だけでなく、大学運営業務を含めるべきで、本学が抱える地理的な弱点を補うチャンスだと捉えるべきです。本学には、退学率と留年率の改善というもう一つの課題があります。難しい課題ですが、教職員の意識改革と組織的教育により、乗り越えたいと思っています。千利休の「守破離」という訓の如く、伝統的教育を守りながら、今までの意識を破り、そこから離れることにより新しい教育が始まると考えております。

来年度からは、この年報は学長直轄の 1 年間の大学活動報告書とし、本来の目標である短期の大学自己点検・評価の達成度についての内容を深化させ、さらに中期・長期の目標設定も考えながら、大学のブランディングの向上に努めていきます。

# 教育活動および研究活動の実績

## (1) 教育活動

教学部長 岡田 成 賛

本学は「組織的な教育の展開」、「学修成果の見える化」、「内部質保証」、「情報の公表」を図るため、令和3年度より教学マネジメント会議を設けている。学長、教学部長、学部長・学科長や各委員会責任者等で構成する同会議は、大学教育の総括的な課題に関して協議し、迅速に対応する組織である。また各学科、各委員会等が年度ごとに作成したPDCA表を審議し、学科・委員会等の課題の内容や進行状況を大学全体で情報共有し、教学マネジメントを推進している。

また学科間や全学的な教務事項の連絡・調整や全学的な教学課題の調整・立案を行う全学教務委員会を設置し、各学科からの複数の担当者と教学IRや教学事務担当者の参加を得て、実務的な組織として教学マネジメントに当たっている。

本学の教学においては、多様な学生に即した「学修者目線」による教育を実践し、教育目標を達成する事を大切にしている。つまり教員が「何を教えたか」ではなく学生が「何を学び、身に付けることが出来たか」への転換である。その為にはたゆみない教学マネジメントの展開が必要であると考えている。

一昨年度、従来の「医学教育研究センター」を発展的に改編し、①基礎教養講座 ②基礎医学講座 ③臨床医学講座の3つからなる「基盤教育センター」を新しく設置し、学科から各講座への教育内容を含む要望や調整・連絡などを行っている。また学部の枠を超えた「学部横断的授業」も検討され、一部実施している。

以下、現在における教育活動の実施状況について記載する。

### 1) 成績評価の新基準 — 「秀」の導入

全学教務委員会で検討、教学マネジメント会議、管理運営会議の協議を経て、令和5年度新生から成績評価に「秀」を導入した新基準に移行した。

表1 成績評価の新基準およびGP

レターグレード	従来の GP	新基準の GP
秀		4
優	4	3
良	3	2
可	2	1
可-	1	
不可	0	0

上記の表1に示すように、従来は100点～80点までを「優」としGPは「4」を付与していたが、新基準では100点～90点を「秀」としGPは「4」、89点～80点を「優」としGPは「3」、「可」のGPは「2」から「1」となり、「可-」は削除した。

本学では学生の学修意欲の向上及び修学指導に役立てる目的で学修の状況及び成果を示す指標として「GPA」を導入している。この「GPA」の正確な算出と信頼度の向上、そして何よりも学修の理解度を正確に把握するために、今回「秀」を導入した。また同時に「GPA」の信頼度を上げるためには、レポート課題や実習評価についてもルーブリック等を用いて数値化することを徹底する必要がある、大学全体で推進していくことが求められている。

また新しい成績評価基準の採用により、従来のもものと比して「GPA」が大きく低下することが考えられる。そこで2022年度の成績を用いて、「優」を獲得した者の20%が「秀」に移行すると仮定して「GPA」を算出したものが表2である。

表2 2022年度成績に基づく新基準のシミュレーション

2022年度成績のGPA	従来	新基準のシミュレーション
看護1年	2.838±0.606	1.932±0.475
救急1年	3.083±0.555	2.317±0.489
柔整1年	3.100±0.545	2.317±0.454
鍼灸1年	3.059±0.746	2.298±0.614

結果は全体的に0.75ポイント低下し、GPAで判定している進級判定基準に大きく影響を及ぼすことになる。したがって、この結果を踏まえて各学科の進級判定基準におけるGPAの数値を新たに設定する必要がある。また本学では就職時の成績表にGPAの数値を記載しているが、雇用先にも新旧の成績評価基準について丁寧な説明が必要である。

## 2) 授業時間の変更 — 100分授業から90分授業へ移行

本学は、令和4年まで100分授業を採用していた。90分授業から100分授業への変換目的は、「学びの質の転換」としてactive learningをより積極的に展開する為に授業時間を10分間拡大し、また学生が主体的に活動できる長期休暇期間を確保することであった。100分授業で4時限終了時刻が遅くなることで、放課後の学修指導と復習の時間が取れなくなり、交通機関の利便性の制限を強く受ける本学では100分授業のマイナス面も出ており、90分授業に戻すことが全学教務委員会で検討され、教学マネジメント会議、管理運営会議の協議を経て決定された。

なお、令和5年度から授業時間を90分に戻す事と合わせて、4時限終了後の16時30分から17時30分までの1時間の有効活用が強く意識され、協議されてきた。

放課後の1時間は学修支援のための時間であり、学修支援を必要とする学生のピックアップと学修活動への参加が重要である。そこで各学科に要指導学生のリスト作成を依頼した。要指導学生の選出基準は、大学からは①必修科目単位の未修得者、②日本学生支援機構の支援を受けている学生で、GPAが下位1/4に含まれる学生とした。それ以外の選出基準に関しては、各学科の判断によることとした。1年生に関しては、入学時の基礎学力テスト結果を参考にし、授業ごとの小テストの結果等も踏まえて、学科判断とする。また要指導学生のリスト作成と同時に学習指導計画書を作成し、個々の学生に対応する。要指導学生のなかにスポーツスカラ生が含まれている場合は、クラブ活動をしながら学べる環境を提供する目的で、スポーツ振興部と協議し、クラブ活動と学習支援との調整を行う場を設け

た。

なお、要指導学生の指導にはクラスアドバイザーが重要な役割を果たすことが期待されるので、クラスアドバイザーの活動に関する認識やサポートを全学的に検討する必要がある。

### 3) DX教育の推進

令和5年5月8日コロナ感染症は、第5類へと移行した。それに対応して本学の教育体制も遠隔授業から対面授業へ徐々に移行してきた。同時にコロナ禍での遠隔授業の取り組みと授業体制の変換は、DX教育の推進にもつながり、より自由な学びのスタイルの実現という目的で、本学においては学長主導の下「DX教育推進プロジェクトチーム」が設立され、多くの先生方や学生達からの意見を聴取し、本学に見合ったDX教育とは何かを立案し、それに向けての準備を進めている。

DX教育のメリットは、学びの自由度と質を大きく向上させることである。具体的には、授業をオンライン化する事で、教員や学生は移動が不要となり、その分の時間を有効に活用できる。また動画での授業(オンデマンド)やアーカイブを利用すると好きな時間・場所で自由に何度でも受講することが出来る。

しかし、大学のDX教育化の課題としては、①学生各人が個人でデバイスを持ち歩き、学修環境を整えることは、学生の経済的負担が発生すること、②教職員、学生の双方が有効に利用するには、ICTに関する知識とGoogle classroom, Active portalなどを十分に使いこなすスキルを身に付けておく必要があること、③学内及び居住する場所のWi-Fi環境が整っていること、などの課題があるが、まずはDX教育を推進する目的と推進計画を作成し、大学全体で取り組む必要がある。

### 4) 入学前教育と初年次教育

入学前教育と初年次教育は一連のものと考え、両方に力を注いでいる。特に初年次教育は大学4年間の学びを決定づけるだけに重要であるとの認識のもとに取り組んできた。

入学前教育は入学手続きを完了した学生が、入学前に入学式以降の大学教育と大学生活に適応できるようにするために必要最低限の大学情報や教育科目の紹介、またそれに向けての心構えに関して教育指導を行うもので非常に重要である。各学科の特色に応じて特徴的な教育内容や教育計画(回数や時期、課題内容、形式として対面で行うのか遠隔にするのかなど)を入学生に分かるように創意工夫して実施している。

上述したように入学前教育の延長に初年次教育があり、連続するものであることから、初年次教育は、その観点に立って実施している。初年次教育については、これまでの分析から、大学4年間の高等教育において「初年次の学業成績と2年次以降の学業成績は、強い相関性がある」ということが明らかになっている。したがって、いかに初年次に高校生から大学生(生徒から学生に)に上手くスイッチ出来るかが大学4年間の学びに大きく影響を及ぼすことから、学生には「学びの質の転換」として「自律的な学修」態度が身に付くよう初年次教育に取り組んでいる。

## 5) 授業改革に向けた教学課題

大学で教壇に立つ多くの教員は一般に教授法（学修指導法）に関する教育は受けていない。したがって、その授業法は自らが受けてきた教育をモデルにし、「感覚」で日々の学生教育に当たる場合が多いと思われる。教員自身が教授法（学修指導法）や学修主体である学生について学ぶFD活動の活性化が求められる所以である。本学の場合、授業参観の機会は設けられているが実際の参加者は実施者も参観者も少数である。FD活動として授業参観を成立させるには学科の取り決めの下に実施することも考えられる。

また、教員が自らの教育実践を振り返るツールがティーチングポートフォリオであり、昨年度から、全学教務委員会・FD委員会で準備してきた。多くの教員の参加を得てできるだけ早く普及する必要がある。

本学でも科目にナンバリングが施されており、各科目間の関係性がわかるようになっている。しかしながら、科目間の積み上げや横の関係性について明確にするためには（つまり教員が自分の担当科目の位置づけを認識するためには）科目間の関係性について学部・学科で練り、教員が理解することが必要である。その際、DPやCPとの係わりで授業科目の内容や程度、授業で扱う順番が決まることを踏まえ、総合的な観点から検討される必要がある。

## (2) 研究活動

研究部長 林 知也

昨年度（2021年度）に引き続きCOVID-19の影響による活動制限を受けていたものの、全国的にも学会大会等が順次対面形式に移行するなど、研究活動は少しずつ活発になっていった1年であったと考える。

本年度（2022年度）の本学の研究活動における概略を項目に分けて以下に記す。

### 1) 本学の研究、特にヒトを対象とした研究へのCOVID-19の影響

昨年度と同様に、2020年度に策定した「ヒトを対象とした研究の実施に対するガイドライン」に従って、研究活動を実施した。COVID-19のワクチンの普及や、上記のガイドライン策定から2年経過したこともあり、COVID-19への感染拡大予防を最大限に考慮しつつ研究活動は昨年度よりは活発になってきたと考える。しかし、学外の施設（特に医療関係施設）に出向いての測定等は昨年度と同様に困難であることが多かった。また、昨年同様に各教員の様々な活動が多様化していく中、研究活動へのエフォートが減少していたことは否定できない。結論として、本年度の本学全体の研究のパフォーマンスをコロナ禍以前（2019年度以前）のもの比べると、低下している状態であったと捉えている。

## 2) 学内研究助成

### ① 2021 年度の学内研究助成に係る研究成果発表会

- ・日時：2022 年 8 月 31 日
- ・実施形式：Google Meet によるオンラインと対面（10 号館 21 教室）のハイブリッド形式

ここ数年来、単年度ごとの学内研究助成に係る研究成果報告書提出と研究成果発表会実施は、翌年度に設定されてきた。昨年度実施の研究成果発表会は COVID-19 への感染防止の観点からオンライン形式で実施したが、本年度の発表会は、上記のようにハイブリッド形式での実施となった。重点研究で 2 件、若手研究枠で 11 件、大学のブランディング化に関する研究枠で 6 件、教育改革を志向した研究枠で 2 件の発表が行われ、活発な質疑応答も行われた。

### ② 2022 年度学内研究助成

昨年度までは、学内研究助成は教員のみを対象とされていた。しかし、本年から大学院の学費減額に伴い大学院生研究費が大幅に減額されたため、大学院生の研究サポートを目的に、大学院生（ただし、研究費が減額された 1 年生のみ）も応募対象とした。そのため、大学院生も対象とした若手研究枠を増額し、助成全体で 670 万円の予算とした。また、昨年度の大学ブランディング化に関する研究の枠を、今年度は病気・ケガの予防に関する研究の枠に変更した。応募件数は 2019 年度の 38 件、2020 年度の 28 件、2021 年度の 24 件に比し、本年度は 28 件であった。2021 年度に比し、若干増加したもののコロナ禍以前の 2019 年度の数には及ばなかった。具体的な採択状況として、重点研究枠 75.1 万円（3 件）、若手研究枠 205.4 万円（11 件）、予防に関する研究枠 233.5 万円（11 件）、教育改革を志向した研究枠 29.1 万円（3 件）の計 543.1 万円を配分した（昨年度比 13.1%増）。

## 3) 2022 年度全学横断的シンポジウム

- ・日時：2023 年 3 月 1 日
- ・実施形式：対面形式（10 号館 21 教室）
- ・メインテーマ：本学の目指すアスリート支援体制

—次世代のエビデンス創生を目指して—

昨年度は COVID-19 への感染防止の観点からオンライン形式にて実施したが、今年度は感染状況が随分落ち着いたことから、上記のように対面形式での実施となった。

COVID-19 による影響により以前とは異なる環境に晒された学生は、勉学面において、オンライン化による講義が進められ、臨床実習等に参加するため、自主的な健康管理や行動制限を行うことが求められた。特にアスリート学生は、それに加えスポーツ面において、部活動や公式試合への参加が出来ない状況に順応することや、身体的かつ心理的、社会的にも負荷の強い状況にあることから、アスリート学生に対する健康管理や競技力向上に対して、どの様なサポートが可能であるか、サイエンスの視点から新たな方針を見出すことを目的として、本学 4 学科に共通した身体的・精神的など多面的な課題と支援方略について、意見共有を図り、研究者とコーチ（育成者）の協働によるアスリート育成について検討し

た。本学では、ここ数年スポーツと医療関係職の学修の両立を図っているため、アスリート学生がかなりの数を占めている。そのため、サイエンスの視点からのサポートはこれから重要な課題である。本シンポジウムでは、本学での実施可能なサポートの提示と同時に、現在における問題点も提示され、今後のサポート実施に向けた足掛かりを作ることができたと捉えている。

#### 4) 2022 年度全学研究ポスターワークショップ

- ・ポスター掲出期間：2023 年 3 月 6 日～3 月 18 日
- ・ポスター掲出場所：10 号館 1 階メディカルフュージョンラウンジ
- ・口頭によるポスター説明：3 月 9 日

本ワークショップは、学内の研究者の交流を目的として毎年実施されており、本年度も昨年度と同様に、教育の業務がやや落ち着く年度末に実施した。

口頭によるポスター説明は、昨年度は感染防止の観点からオンライン形式にて実施したが、今年度は感染状況が随分落ち着いたことから、ポスター前での対面形式に切り替えた。昨年度の 12 件に対し、本年度は 13 件と、発表数の増加はほぼ認められず、コロナ禍前の状況に比し発表件数は減少したままであった。しかし、対面形式のため、活発な質疑応答が行われ、研究者間の交流が十分に行うことができたと考える。

#### 5) 2022 年度外部資金受け入れ状況など

2022 年度の科学研究費補助金受け入れによる研究は、新規採択 4 件（基盤研究 (C) 3 件、研究活動スタート支援 1 件）、継続 7 件（基盤研究 (B) 1 件、基盤研究 (C) 3 件、若手研究 3 件）、期間延長 5 件の計 16 件が行われた。また、日本医療研究開発機構（AMED）の助成金受け入れによる研究が 1 件、科学技術振興機構の助成金受け入れによる研究が 1 件行われた。その他、受託研究が 1 件、新規奨学寄付金による研究が 1 件、研究費受け入れによる共同研究が 3 件行われた。

PDCA表

【鍼灸学科】

令和4年度	初年次教育		PLAN（計画）の内容：学力的な問題による退学者数及び留年者を0にし、2年進級時に必修科目の単位取得率100%の者を80%以上にする。例年未修得者が多くなる解剖学Ⅰ・Ⅱ生理学Ⅰ・Ⅱの単位取得者をクラス全体の80%以上にするために、学力に問題がある学生を抽出し、面談によって勉強への取り組み方や勉強の仕方を聴取してその対応を検討し、個別に対応することで学力向上を目指す。また、出席数の不足によって評価を受けることができなくなる学生を未然に防ぐ。さらに、退学や休学の原因となる大学への不適応感の形成を防ぐ。		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D：計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（％）	C：目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A：課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 学力に問題がある学生の抽出 2. 国家試験配当科目のフォロー 3. 出席状況を常時モニタリングする 4. 大学生活への不適応感の形成を防ぐ 5. 教務助手のサポート	1. 入学前教育の課題、オリエンテーションで実施した基礎学力テストの結果、国家試験配当科目の小テスト、前期中間試験結果を参考に低学力者を抽出する。 2. 1. で抽出した学生に対して勉強の指導等を個別対応で実施する。 3. 出席基準が厳しい実習科目では、1回欠席で注意を促し、2回目の欠席で嚴重注意を行う。 4. 定期的な面談を実施し、日常から声かけを積極的に行って学生の状況を把握する。 5. 教務助手が成績不良者に対して、呼び出しや勉強の方法を教えるなど、細かなサポートを行う。	100%	1、2. 解剖学Ⅰ、生理学Ⅰの小テスト結果から、得点率が5割未満の学生(6名)を抽出し、課題を配布して提出させるなどの個別対応を行った。1年終了時に必修科目の単位取得率100%の者は32/39名(82%)であった。 3. 注意を行った結果、出席基準を下回ったことにより不可(受験不可)となった学生は1名であった。 4. 前期と後期に面談を実施した。勉強に問題がある学生はその都度呼び出して面談を行った。 5. 試験前だけでなく、日頃から勉強に不安のある学生に対して個別で対応を行った。	1、2. 基礎学力テストの結果と単位修得率は必ずしも一致していなかったが、解剖学、生理学の小テストが指標となった。 3. 本人だけでなく保護者とも連携したが、受験不可を防げなかった。 4. 実行できた。 5. 学力が向上しているのかを評価できていなかった。	1、2、4、5. 解剖学Ⅰ、生理学Ⅰの小テストを基準に、低学力者を抽出する。目標は達成できたものの、1年配当科目の単位取得率100%を達成できなかった者7名のうち4名は複数科目が不可となっているため、1つでも多く単位が取得できるよう個別対応を行う。具体的には、学生の学習内容を確認してフィードバックを頻繁に行うことが必要。 3. やる気やモチベーションの低下、人間関係が悪化した結果が欠席に結びつくため、日頃のコミュニケーションで学生の変化を察知し、教員間で情報共有する。

【鍼灸学科】

令和4年度	スポーツスカラー	PLAN（計画）の内容：スポーツスカラーの単位の取得状況、部活動の状況、生活面、学習の方法などを面談にて聴取し、さらに認知特性テストを実施して、現在の状態を把握し、学習面・部活面にどのように活かしていくのか？共に考える機会を設ける。実行に移して行く際に障害（監督との関係性など）となるものについては、各クラブの指導者と連携を図り、理解を求めて、サポートしていく。			
PLAN（計画）	DO（実行）	CHECK（評価）		ACTION（次への改善）	
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
個別面談にて、単位の取得状況、部活動の状況、生活面、学習の方法などを聴取。さらに認知特性テストを実施して、現在の状態を把握し、学習面・部活面にどのように活かしていくのか？共に考える機会を設ける。実行に移して行く際に障害（監督との関係性など）となるものについては、各クラブの指導者と連携を図り、理解を求めて、サポートしていく。	・認知特性テストの結果より今年度の傾向としては、視覚優位者（三次元映像）が多く、言語優位者（言語抽象タイプ）・聴覚優位者（聴覚言語タイプ・聴覚音タイプ）が低い結果となった。 特性が高い項目について、カメラアイタイプの認知特性が高いことから、図を用いて説明することが得意な学生が多い。また、三次元映像タイプの認知特性が高いことから、図や形を覚えるのが得意な学生が多い。認知特性が低い項目について、言語抽象タイプの認知特性が低いことから、難解な文章を図式化することが苦手な学生が多い。聴覚言語タイプの認知特性が低いことから、先生の説明を聞くのが苦手な学生が多い。聴覚音タイプの認知特性が低いことから、言葉を聞いたり、暗唱して覚えることが苦手な学生が多い。今年度の傾向に加え、個人の特性についてそれぞれフィードバックを行ない、特性を活かした学習方法を提案する。 ・期末テストだけでなく、小テスト、中間テストの結果を部活動の部長や監督と共有し、部活の空き時間などを使い、今年度から採用した教務助手が個別指導をすることで、未修得科目の軽減させる。	80%	令和4年度に実施した項目として、 ①個別面談の実施（各CAが実施） ②認知特性テストの実施ならびに結果のフィードバック（3年生のみ） ③スポーツ振興課との成績共有（全学年） ④クラスアドバイザーならびに教務助手による個別指導 が挙げられる。  このうち、①③④については、退学者数ならびに未習得科目を持っている学生が減少したことから、目標が達成できたと考えられます。しかし、③については国家試験の合格率が約60%であったため、さらに個別で細かいフォローが必要であると思われる。	1年生 退学者 0名 未習得科目 2名  2年生 退学者 1名 未習得科目 1名  3・4年生 国家試験合格（自己採点結果） 18名中11名合格（61%）	学生サポート組織の再構築 現在、各学年にクラスアドバイザー（CA）ならびに教務助手を配置し、学生のフォローを行なっていますが、CA、教務助手、学生に周知徹底出来ていないため、スポーツスカラー担当者の位置づけが曖昧です。スポーツスカラー生のサポートを強化するならば、学生サポート組織におけるスカラー担当者の位置づけを明確にし、CA、教務助手、学生にも認知いただき、情報が集約できるよう再構築すべきだと考えます。また、1名でのスカラー担当は把握できる情報にも限界があり、細かいフォローが行えないことから、複数名の担当が必要であると思われる。

【鍼灸学科】

令和4年度	鍼灸学科国家試験対策委員会		PLAN（計画）の内容： 令和2年および3年度のデータ（未修得科目数と合格率および模擬試験得点と合格率など）に基づいた具体的な目標を学生に提示し学修指導を行う。これにより3年生の国家試験の合格率为90%以上、新卒4年生の合格率为100%とする。		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D：計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C：目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A：課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
<p>1. 令和4年度国家試験対策ポリシーを策定する。</p> <p>2. 国家試験対策チームを編制し担当制を実施（3年生担当、4年生担当）。</p> <p>3. 第30回はり師・きゅう師国家試験結果と1・2年次の学修状況との関連について調査分析する。</p> <p>4. 明治東洋医学院専門学校との合同模擬試験の実施（計3回）。</p> <p>5. 模擬試験の成績不振者に対する面談とデータに基づく学修指導。</p> <p>6. 学生の特性に応じた学修環境の設定。</p> <p>7. 長期休暇期間及びコロナ感染症下におけるオンライン学修環境の設定。</p> <p>8. 受験年次の希望調査。</p> <p>9. 国家試験後アンケート調査。</p>	<p>1. 策定済み。</p> <p>2. 編成済み。</p> <p>3. 調査分析済み。結果は令和4年度オリエンテーション期間および鍼灸総合演習1の第1回目の授業で3年生にフィードバック済み。併せて2年生についてもオリエンテーション期間に同様の内容を説明し、2年生での学修の仕方について説明した。</p> <p>4. 第1回合同模擬試験作成に着手中。</p> <p>5. 第1回模擬試験結果（得点率45%未満）かつ未修得科数（1科目以上）に基づいて面談実施済み。今後模擬試験ごとに実施予定。</p> <p>6. 面談時に学生の学習環境を確認し、必要に応じて教員室周囲での学修を推奨。</p> <p>7. 令和3年度実施内容に基づいて実施予定。</p> <p>8. 面談時に確認済み。面談学生すべて3年次受験希望。</p> <p>9. 実施予定→不合格者・未修了認定者との面談調査に変更。</p>	<p>1-8は100%実施済み。9は進行中。</p>	<p>大筋で当初の計画通り実施することができた。過去2年間のデータ（未修得科目数）に基づく今年度の3年生の合格率は3年生進級時点で70～80%と想定されていた。結果として、現段階での3年生の合格率は72.7～75.8%（1名自己採点未実施）となった。当初の想定を超えるべく国試対策を取って来たが結果に反映できなかった。この点については過去のデータからも2年終了時で未修得科目を1科目以上持つ学生（過去3年間の3年生進級時での未修得者の割合は平均43%である）の国家試験合格率が約20%程度ということを考えている。2年次での学習指導が重要であることが改めて示されたと考えている。</p> <p>なお、この問題については既に1、2年次の早い段階からの国家試験を意識した学習のサポートに取り組んでいるところである。</p> <p>4年生の合格率は20%であった（新卒100%（1名）、既卒0%（4名）、未修了認定者5名）。予想合格率は3月6日現在のものである。</p>	<p>1. 国家試験対策ポリシー</p> <p>2. 令和3年度はり師・きゅう師国家試験分析</p> <p>3. 模擬試験結果・経時的变化</p> <p>4. 模擬試験結果の学生へのフィードバック資料</p> <p>5. 面談者リスト（メリー）</p> <p>6. Googleクラスルーム（課題、学習資料）</p> <p>7. はり師・きゅう師国家試験合格結果（3月25日発表予定）</p> <p>8. 国家試験合格分析</p>	<p>これまで試験結果に基づく個別面談による指導、また全学生を対象とした未修得科目数や模擬試験の成績と国家試験の合格率の関係などを具体的な数値を示しながら指導を行ってきた。これにより危機感を持って勉強に取り組んだ結果、合格する学生もいた。しかし、国家試験に合格できないあるいは修了認定されない学生と面談すると自身の現状を正しく認識できていない者（早めに取り組むように説明しても実際に取り組むのが遅い、十分な点数でないにも関わらず十分だと感じたりなど）や学習そのものに対する意欲が低い者（資格取得は希望している）などが多数を占めていた。これまでは自主性を尊重しつつ指導を行ってきたがそれでは十分ではないと明確となったため、次年度からは一定の条件のもと学習を課（小テストなど）すことで教員が学習を管理をすることとする。</p> <p>上記と共に、引き続き1、2年次からの学修指導を積極的に行い3年生進級時での未修得科目を減らすようにする。</p>

【鍼灸学科】

令和4年度	キャリア支援	PLAN（計画）の内容：昨年度の進路決定率は100%であり、今年度も同様に100%を目標とする。また、コロナ禍の影響を受け、近年の学生では進学や一般職を希望する学生が増加しており、そのことも踏まえた対策を含めて活動を行う。就職率100%達成のための施策として、キャリア支援室の整理、合同就職説明会の開催、一般職希望学生への支援強化を骨子として活動を行う。			
PLAN（計画）	DO（実行）	CHECK（評価）		ACTION（次への改善）	
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D：計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C：目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	A：課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。	
1.就職アンケートと面談の実施 2.キャリア支援室の整理と求人情報の整理 3.合同企業説明会の企画・運営 4.進学、一般職希望者への対応強化 5.求人先の問題点の整理	1.5月時点で就職アンケートと面談は完了した。 2.4月時点でキャリア支援室ならびに求人情報の整理は完了した。 3.合同企業説明会年3回を予定しており、準備も遅滞なく進んでいる。 4.進学や一般職希望者には個別に対応中である。一般職希望者には「京都新卒応援ハローワーク」の活用を促し、早急な就職活動を指導している。 5.問題が発生した場合の情報集約については、担当者間で協議中である。	60%	1.5月実施の就職アンケートと面談に基づき、学生の就職希望状況は把握できた。 2.キャリア支援室の利用開始に関して全学生に告知を行い、新たに求人検索NAVIを本格導入したことで学生の利便性が向上した。 3.キャリア委員会での決定に基づき合同企業説明会を対面2回、オンライン1回実施し、進路決定に寄与した。 4.進学、一般職希望者に関しては個別対応の結果、遅滞なく進路決定できている。 5.キャリア支援担当者に情報集約・共有を行い、問題発生時にはキャリア支援委員会にて共有している。	1.学生アンケート 2.学生SNSの履歴ならびに求人検索NAVIの運履歴 3.合同企業説明会の学満足度調査 4.進路決定届 5.1-4の資料の共有を評価の根拠としている。	1.アンケート内容について、より具体的な内容の調査へと見直しが必要である。 2.求人検索NAVIの利用者数が少ないため、利活用を推し進める必要がある。 3.合同企業説明会の実施日程の前倒しが必要で、すでに次年度の開催日程を調整している。 4.進学に関する説明会の時期を再検討する必要がある。 5.キャリア支援委員会の定期的な開催による学科間の情報共有が必要である。

PDCA表

【柔整学科】

令和4年度	入学前教育		PLAN (計画) の内容：4月から大学での勉学の準備として、基礎医学の紹介を主体に医療従事者として人体の構造と機能について理解を促す。		
PLAN (計画)	DO (実行)		CHECK (評価)		ACTION (次への改善)
P: 目標を実現するための具体的な方法を考える	D: 計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率 (%)	C: 目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A: 課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 国家試験合格のために必要な生物などの復習を行う。 2. 4月からのオンライン授業に向けてパソコン等の使い方を指導する。 3. 基礎医学の習得がスムーズに行えるように課題等を配布する。	1. Google classroom、Google formsを使用した課題を実施する。 2. Google Meetを使った交流会を実施する。 3. 解剖学・生理学の基礎医学の教材を配布し学習させる。	80%	・ 入学生の学習状況の管理に、学習支援センター、ICT教育推進室、柔道整復学科の連携が必要である。 ・ 入学生のパソコン等の修得度、学習意欲、知識レベルの判断が難しかった。	・ 課題の未提出者、Meet交流会の欠席者に対して、その原因が確認できなかった。	・ 課題作成やスケジュールについて、学習支援課、ICT教育推進室、柔道整復学科の三者が連携する必要がある。 ・ アンケートの実施や課題未提出者にヒアリングを実施し満足度を上げる。

【柔整学科】

令和4年度	初年次教育		PLAN (計画) の内容：1年生前期において医療従事者として目標とする職業の理解と、目標達成の為の大学の勉学		
PLAN (計画)	DO (実行)		CHECK (評価)		ACTION (次への改善)
P: 目標を実現するための具体的な方法を考える	D: 計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率 (%)	C: 目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A: 課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 学習目的を明確にする。 2. 学習意欲を高める。 3. 予習・復習の習慣を身に付ける。 4. 医療従事者として目標とする職業の理解 5. 目標達成の為の大学4年間での勉学方法	1. 面談を実施し個別指導を行う。 2. ホームルームにて授業のフォローを行う。 3. 予習・復習の方法を指導する。 4. 学習支援課と連携し成績不良者の早期対応(面談と個別指導)を行う。 5. 早期の職業紹介と、模擬実習(early exposure)。 6. 早期体験実習・クラブの顧問や科目担当者と連携し学習指導を行う。 7. 年次ごとのカリキュラムの説明と学年毎の就職活動のスケジュールの説明		1~3. ホームルームの実施回数が減少したため授業フォロー、学習指導等が出来なくなった。 4. 成績の確定が遅れたため成績不良者への対応が遅れた。 5. 就職説明会への参加を促すことができた。 6. 情報共有はできるようになった。 7. オリエンテーションにて実施した。 上記の結果、学力の二極化を防ぐことは出来なかった。	1~3. 時間割と担当者のスケジュールが合わない。担当者が繁忙のため。 4. コロナ対応試験等により試験期間が延長したため。	入学する学生の学力の低下に伴い、指導回数、指導時間は増加する傾向にあると考えられる。サービス向上には人員の増加、アドバイザー・授業担当者・教務の連携と共通認識、低学力者の早期発見・学習指導等のシステム構築が必要と考える。

【柔整学科】

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：柔道整復学科基礎科目の理解		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1.教科書の選定 2.わかりやすい基礎知識 3.医療人としての基礎知識	1.専門科目と連動した基礎知識の教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価、見直しの実施 2.国家試験出題基準に準じる内容の教科書 3.生活習慣を基にした基礎知識		・解剖学と生理学の教科書で共通する項目を、どの様に説明しているのかを提示する。 ・基礎医学の項目を柔道整復学に関連付けて説明し、臨床的に重要である事を理解する。 ・講義内容に関連する日常的な形態や動作を説明する。	・講義毎に内容に沿った小テストを実施し、解説を行う。 ・自己採点をして、自身の理解度をチェックする。	・解剖学（形態）と生理学（機能）の立場から同じ項目を説明し、学生達の理解度が増した。 ・基礎科目の講義に柔道整復学・理論編の教科書と合わせて抗議し、臨床的に重要な項目が理解できた。 ・小テストの内容を段階的にレベルアップし、解説を次回の講義で行い、自己採点させる。

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：柔道整復学科専門科目の理解		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1.柔道整復師としての知識、技術の習得（実技・実習・講義）	1.臨床実習を通して、より具体的な授業とすることで実践力を身につける。 2.共通科目が連動した教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価、見直しの実施 3.非常勤講師の講義、実技授業の支援		・実際の現場を学ぶことで実践的な知識を習得。 ・現在も評価し、現段階では教育課程の問題はない。 ・講義、実技授業での配布プリントや使用物品を揃える。	・患者カルテ作成 ・患者が少ない実習	・外傷患者が多い実習先を検討する。 ・非常勤講師の授業に専任教員がない場合は、アドバイザーが支援を行う。

【柔整学科】

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：学外実習		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア育成のための理論や社会に必要な素養（コミュニケーション力、社会的なマナー）を理解できているかを確認し次年度につなげる。</li> <li>・見学内容の方法、内容等の再検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に参加する。</li> <li>・実習に関するレポートを作成し提出することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に欠席・遅刻する者もいたが、再実習により全員実習に参加できた。</li> <li>・実習レポート内容から、実習の意義等が理解できている様子がうかがえた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先においては、交通の便が悪い所や大学や自宅から遠方の所もあり、実習場所の見直しが必要である。</li> </ul>

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：卒業研究		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
計画的な研究の実施と研究成果。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験研究が楽しいと思えるように工夫</li> <li>・研究論文の形式の伝授</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は退職された先生の引き継ぎが必要なゼミが多くあり、一部引き継ぎが不十分なところがあった。</li> <li>・図書司書の方に論文検索の方法について講演をしていただいた。</li> <li>・卒業研究論文集の発行を行なう。</li> </ul>	卒業研究IとIIは、ルーブリック評価で採点する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な引き継ぎを行うことと、引き継ぎの段階ではある程度の形にした状態で移行する。</li> <li>・卒業研究論文集発行に当たって、論文の掲載様式を統一する。</li> <li>・提出期限を遵守する。</li> </ul>

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：国家試験合格率の改善		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 国家試験対策委員会を編成 2. 面談による学習意欲のスクリーニング 3. 模擬試験の実施	1. 委員会による担当科目や対策の計画 2. 個別面談によるスクリーニングを実施 3. 模擬試験を8回実施(学内4回、学外4回)。		1. 国試過去問題を分析した上で、各科目担当者が対策講義を実施し、複数回の模擬試験等にて各学生の成績を確認し、実施計画にフィードバックさせた。具体的には国試過去問の学習が足りないことが判明したため、空コマを利用して国試過去問を自己学習させる時間をかなり増やした。それでも結果として、12月まで学生の学習への意識が低く、国試過去問の徹底的な理解が進まなかった。 2. 個別面談にて、接骨院等への就職、一般業種への就職、進学等を区別し、国家試験に対する意志を確認した。4年生のほぼ全員が国家試験合格を目指す意思を示し、学習指導を行ったが、実際の学習時間増加になかなか結びつかなかった。 3. 3回の外部模試、吹田の専門学校との共同作成模試、学内作成の模試で、最終的には11回行ったが、4年生全員の目標とした12月末～1月中頃での一般問題6割に達した学生は3割に留まった。	・10月外部模試の一般問題（200問）の成績 平均±S.D. =79±21点 120点以上：2名 100点～119点：4名 80点～99点：13名 80点未満：25名  ・1月学内模試の一般問題（200問）の成績 平均±S.D. =109±28点 120点以上：15名 100点～119点：12名 80点～99点：8名 80点未満：9名	1. 国試過去問の成績と国試合格の関係性を学内の過去の成績からもう一度分析し、4年生の4月から学生に提示し、国試過去問の重要性を説明していく。 2. 個別面談の回数を増やし、4月、7月、10月、12月の各時点でこまめな情報収集とサポートを行っていく。 3. 模試の回数は8～12回程度とし、模試終了後の丁寧なフィードバックを行う。

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：就職率の改善		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D：計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C：目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A：課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. キャリア教育 2. 合同企業説明会・体験会	1. 進路ガイダンス 2. キャリア教育の授業7回 3. 第1回合同企業説明会実施（5月） 4. 第2回合同企業説明会・体験会実施（10月）		・計画的に実行し成果も上がっているが若干名決まっていない（2月現在）。 ・3月初旬の国家試験のことを鑑みると、第2回目の説明会の時期をもう少し早く実施する必要があると考えている。	未決定が約1割（45名中5名）	・次年度は5月と7月に合同企業説明会を実施する。 ・低学年に対して就職活動における早い段階での意識付け。

令和4年度	柔道整復学科		PLAN（計画）の内容：研究活動		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D：計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C：目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A：課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
・学内研究助成の申請、実施を行い研究活動の活性化 ・外部資金を獲得し研究活動を充実	・学内研究助成により研究の基盤を作成 ・科研費など外部資金獲得に向け研究内容の充実		研究活動は学科全体としてはあまり行えていない。 学内研究は3名の先生方が応募し研究を行っている。しかし、科研費やその他の研究資金獲得のために応募した教員は1名のみであり積極的に取り組んでいるとは言えない状況であった。	学内研究は3名の教員が応募した。 科研費等の外部への応募は1名の教員のみであった。	研究の重要性を再確認し外部資金獲得の重要性を考え、応募することが重要である。 上長から応募するようにと強めに声掛けをしていただく。

PDCA表

【救急救命学科】

令和4年度	救急救命学科		PLAN（計画）の内容：国家試験合格率の改善			
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）	
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。	
1. ゼミ単位の国家試験合格に向けた学生の個別支援体制の確立。 2. 模擬試験の予定及び結果解析と個別指導への反映。 3. 国家試験合格を目標とした授業内容の見直し。	1. 教員による担当学生の個別指導と補習授業を実施した。 2. 模擬試験の時期と回数を検討し結果の解析を行い、個別指導に役立てた。 3. 科目担当者に国家試験内容の確認を依頼した。	70%	・各ゼミ毎に温度差が生じた。 ・下位の成績不良者を完璧に引き上げることが出来なかった。 ・成績にバラつき（上位と下位の差がありすぎた）のため、範囲を絞り込んだ対策に苦戦した。	国家試験の合格率 96.2% (53名中/51名)	・指導者のスキルの再確認に併せ、対策範囲とメンバーの選定。 ・成績の分析方法を改善し、成績の層にあった指導を計画する。 ・マンパワー不足の改善	

【救急救命学科】

令和4年度	救急救命学科		PLAN（計画）の内容：研究活動の活性化			
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）	
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。	
1. 学内研究助成申請と研究実施、成果の報告と論文作成 2. 外部資金の獲得 3. 学科内で研究についての検討会を実施 4. 大学院進学への推奨 5. 研究日の確保と研究環境改善	1. 学内研究助成申請し研究実施した。 2. 科研費応募を奨励した。 3. 研究検討会を実施した。 4. 大学院進学支援の対応をする 5. 研究日の確保とタスクコントロールを実施した。	60%	・学内は何とか実施する状況に至ったが、理想とする研究への取り組みには至れなかった。やはり理由は、教育業務に追われ研究への時間スケジュールの確保に苦戦した事である。	学内研究4本 科研1本	・業務整備と時間割整備が重要である。そこから研究日などの設定が確保できるように計画	

【救急救命学科】

令和4年度	救急救命学科		PLAN（計画）の内容：就職支援の改善、強化		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 求人情報のデータ化での管理（消防、他の公務員、病院、一般企業など） 2. 公務員試験支援、 3. 消防受験のための個別指導、4. 就職支援のための教員による学生の個別支援体制の確立	1. 求人情報の集約、掲示、データベース化を行った 2. 公務員試験支援のためのカリキュラム内容の変更を検討した。 3. 消防受験のための小論文、面接指導を実施した。 4. 教員により就職のための個別指導を行った。	50%	・基礎学力の影響により、教養試験がクリアできていない。 ・就職活動計画への取り組みが遅い ・キャリア支援の環境が無いため学科内でのサポートに限界がある。	公務員希望54名中 公務員内定率 29名（60.4%） 上記のうち 消防希望者44名 消防内定率 22名（50.0%）	・キャリア支援の設立 ・マンパワー不足の改善 ・学生自身の就職活動計画についての意識改善指導

【救急救命学科】

令和4年度	初年次教育		PLAN（計画）の内容：初学者教育の強化・改善		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 学習困難者の把握 2. 国語力の向上 3. 学習支援体制の強化 4. 生活環境の変化に順応する支援	1. 基礎学力テストの結果把握、個別面談を実施する。 2. レポート課題に対する個別のフィードバックを行う。 3. 学習支援協力教員に1年アドバイザーを配置する。 4. 個別面談やクラス委員を通じて状況を把握し支援を行う。	65%	・人数が多いため、個々の学生をインプットするのに時間を要するためクラスコントロールに苦戦をした。 ・苦戦した中でも、休退学者を最小人数で抑えられた。 ・基礎学力の対策指導計画が思うように結果に繋がれなかった。		・マンパワー不足の改善 ・基礎教育の計画の再検討 ・コロナ感染対策の緩和から、従来の様に学生間の交流が多くできる学びの環境づくりの計画。

PDCA表

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 基礎医学及び疾病論の科目と看護学専門科目との連携を強化する話し合いの内容履行の確認と課題の洗い直しを行う。 2. 成績評価を学生便覧に準じて行い、成績評価を厳格に行うように努める。 3. 系統的段階的に学びの到達度を高める。	1. 学生便覧に準じた専門科目の再試験、単位認定の実態を確認する。 2. 専門科目担当者と協議する。 3. 実態を確認し課題と対処法の見直しを協議し新たな解決策を立案する。 4. 計画に沿って解決策を実施する	1. 実態報告 2. 実施回数 3. 立案状況 4. 実施状況	1. 再試験、単位認定の実態を把握した。 2. 専門科目（解剖学等）と協議を行った。 3. 教育内容、教授法、試験、その後のフォロー等を協議し、解決策を立案した。 4. 担当教員が計画に沿って協力的に改善し、実施した。	1. 一部科目を除き再試験までで終了。 2. 基礎医学、疾病論担当者と協議実施 3. 改善点を明確にし担当者が修正改善	1. 学生便覧に沿った再試験対応を周知、非常勤にも協力依頼 2. 毎年年度末などに基礎医学、疾病論担当者との意見交換協議を開催し改善に繋ぐ 3. 改善点を共有し、実施する

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 国試対策委員会及び選択コース教員が合格率を高めるあるいは維持するために、模擬試験、試験後個別指導、講師依頼等対策を入学時から体系的に企画改善実施する。	1. 昨年度を基に年次計画立案を確認する 2. 入学時から体系的に基礎医学、疾病論、専門科目の模擬試験等を確認する 3. 試験後の個別指導を確認する 4. 教育上手な講師採用と実施を確認する 5. 既卒1年不合格者を支援する	1. 立案有無 2. 実施有無 3. 指導率 4. 実施回数 5. 支援回数 支援率	1. 昨年度を基に年次計画立案を立案した。 2. 入学時から体系的に基礎医学、疾病論、専門科目の模擬試験等を実施した。 3. 試験後の個別指導を実施した。 4. 講師採用と学生の評判を聴取した。 5. 既卒1年不合格者に連絡し支援した。	1. 国家試験対策委員会が対策を実施 実施内容は別紙報告	1. 安定的に高い合格率を維持するためには対策を一貫して企画する部署が必要 2. ダブルライセンス受験者（保健師）の合格率を向上させる 3. 既卒受験者への対応を企画する

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 専門科目の成績評価を学生便覧等に副って確実に実施する	1. 評価、単位認定の現状を把握する 2. 常勤教員が便覧に副って専門科目の試験、成績評価を行っているかを確認する 3. 他学部他学科との整合性を確認する 4. 課題を確認し改善方法を確認吟味する	1. 現状把握 2. 実施状況 3. 整合性有無 4. 検討有無	1. 評価、単位認定の現状を分析確認した 2. 常勤教員が便覧に副って専門科目の試験、成績評価を行っているかを確認した 3. 他学部他学科との整合性を確認は正した 4. 学生便覧に沿って成績評価を行った	1. 教授内容、方法を改善し、学生便覧に従った再試験対応 2. 再試験不合格者が大幅減少、一部再試験不合格者あり	1. 学生便覧内容を各学年ガイダンスで周知徹底 2. 常勤教員、非常勤教員の再試験とその評価方法を確認

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 公募により学部及び大学院の教育・研究の質を担保できる人材を採用する。 2. 職位に副って教育歴研究歴等を評価する教員採用を明確に実施する。 3. 教員の年齢構成の適正化を図る 4. 教員の職位配置バランスを是正する	1. 公募条件を明確化し、公聴会・質疑応答、学部面談、大学最終面談による適切な人物評価を行い、採用した教員数を確認する。 2. 評価に基づいて教員組織の構成を考慮して採用を決定した教員数を確認する。 3. 教員の欠員数と年齢構成を確認する	1. 公募実施率 2. 公募者数 3. 公募採用率 4. 応募辞退数 5. 年齢構成数・割合	1. 公募条件を明確化し、公聴会・質疑応答、学部面談、大学最終面談による適切な人物評価を行う採用の実績を集計した。 2. 評価に基づいて教員組織の構成を考慮して採用を決定した教員数を集計する。 3. 教員の欠員数と年齢構成を明確にした	1. 公募制度を導入、手順に従い実施 2. 応募者7名、辞退者5名（辞退理由雇用条件など） 3. 臨床看護学領域欠員が多い。高い職位の辞退者多い	1. 公募制度を堅持する 2. 退職時期（辞表提出）により公募困難な期間があり、在職教員に周知 3. 応募者の辞退を抑える手段を検討する 4. 教員の年齢構成を考慮して、教員構成の若返りと将来構想を明確にする

【看護学科】

令和4年度	(看護学部) PDCA表		PLAN (計画) の内容:		
PLAN (計画)	DO (実行)		CHECK (評価)		ACTION (次への改善)
P: 目標を実現するための具体的な方法を考える	D: 計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率 (%)	C: 目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A: 課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 助教助手はリカレント教育に参加し研究について学ぶ 2. 領域で研究を行い大学紀要に投稿する 3. 教育等工夫を行い研究時間を捻出する 4. 学部で研究助成申請を支援する	1. リカレント教育参加者を確認する 2. 紀要への投稿数を確認する 3. 領域教員が研究エフォートを報告する 4. 研究助成申請の支援数を確認する	1. 参加率 2. 投稿数・率 3. エフォート 4. 支援率	1. リカレント教育参加者を集計した 2. 紀要などへの投稿数を集計した 3. 領域教員が研究エフォートを確認する 4. 研究助成申請の支援数、外部研究資金獲得申請数を確認した	1. 研究助成(申請7、獲得3)増加 2. 紀要投稿2、学会誌8、学会発表7 3. エフォート増加も個人差、領域差大	1. 若手教員の研究力を高め、研究助成獲得、論文投稿、学会発表を促進する 2. 引き続き大学院進学と学位取得を推進する 3. 研究時間を確保し、エフォートの改善を推奨する

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN (計画) の内容:		
PLAN (計画)	DO (実行)		CHECK (評価)		ACTION (次への改善)
P: 目標を実現するための具体的な方法を考える	D: 計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率 (%)	C: 目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A: 課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 学年アドバイザーが低学年から面談を実施し、学習レベル、適性等を把握する 2. 低学年の基礎実習等において学習レベル、適性を確認し、その情報をアドバイザーに伝え、必要な学生に面談を行う	1. 面談の実施回数と学習レベル、適性等の確認の有無を確認する 2. 実習担当者からの情報提供と、それに基づく面談回数を確認する	1. 面会回数、学習レベル、適性確認の有無 2. 情報提供、提供者面談率	1. 面談の実施回数と学習レベル、適性等の確認の有無を調査した 2. 実習担当者からの情報提供と、それに基づく面談回数を調査した	1. 低学年より面談実施、実施回数増、個別対応増加 2. 委員会、会議で情報共有し早期対応	1. 低学年より学習困難者、学部不応者者を早期発見し、対応する 2. 情報を共有し、様々な場面からリスクを早期に予測し面談につなぐ

【看護学科】

令和4年度	看護学部		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
1. 大学広報と協働し、HP、パンフ、大学院説明会、同窓会等により勧誘を強化する 2. 大学院担当教員が卒業生等から大学院生を勧誘し、研究指導する院生を確保する 3. 研究指導及び大学院教育を担当する教員を採用する公募を行い教員数を確保する	1. 広報でHP、Instagram、Twitterや説明会、同窓会、広報誌を活用し、卒業生・在校生、医療職に周知勧誘する。 2. 大学院を担当する教員を採用し、教員が大学院生を勧誘確保し、定員を充足する	1. 大学院情報の掲載率、頻度、スペース 2. 大学院担当教員数、入学者数、研究指導担当数	1. 広報でHP、Instagram、説明会、同窓会、広報誌を活用し、卒業生・在校生、医療職に周知勧誘した。 2. 大学院を担当する教員を採用し、教員が大学院生を勧誘確保し、定員を充足できず2名に留まった	1. 広報委員会が新たなツールで情報発信新設、写真活用 2. 奨学金、口コミ等で勧誘、一部の教員が積極的参画	1. 広報活動を強化し、大学・学部の魅力を発信する 2. 発信する情報を積極的に収集し広報課、委員会に提供する 3. 学生の嗜好性に適したツールやコンテンツを探索し発信する

PDCA表

【基礎医学講座】

令和4年度	解剖学ユニット		PLAN (計画) の内容：解剖学 (人体の構造) の理解度を深める		
PLAN (計画)	DO (実行)		CHECK (評価)		ACTION (次への改善)
P: 目標を実現するための具体的な方法を考える	D: 計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率 (%)	C: 目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A: 課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学用語の理解</li> <li>人体の構造に興味を持つ</li> <li>教科書の理解</li> <li>医学の基盤である基礎医学の理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学用語の命名の理由と漢字の意味の説明。図形による解剖学用語の説明。運動器 (骨学、筋学) については模型に触れて、スケッチしながら名称を覚える。</li> <li>ヒトの形態の比較解剖学的な特徴と、比較人類学的な相違について説明する。日常的な動作を人体の形態的特徴で説明。</li> <li>教科書の文字を追って講義するのではなく、内容を図形に置き換えて説明する。</li> <li>ヒトの構造と機能の障害が疾患に至る病理学的な機序を、臨床症例を交えて解剖学的に説明して、基礎医学が臨床的に重要である事を理解</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験の出題項目は、非常に多くて出来る限り分かり易い授業を行おうとしたが、時間に無理があり後半はペースを上げなければならなかった。</li> <li>最初は小テストの解説時間を取っていたが、それも時間的に出来なくなり最後はまとめて一緒に解説を行った。</li> <li>形態を教える解剖学なので、出来る限り分かり易い資料作りに時間を費やしたが、学生達の反応は定かではない。</li> <li>より臨床的な授業内容にするために授業中に柔道整復学の教科書と併用して解説を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回授業ごとの小テストの配布と解説。</li> <li>試験の2週間前に試験問題の出題傾向と項目についてmellyとclassroomに掲載する。</li> <li>問題解説時に正答率を伝えて、再試験は正答率の悪い問題を半分出題し、残りの問題は出題傾向を代えない問題を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生達から復習する方法について質問されたので、来年度は授業をビデオ撮影して、classroomに一定期間アップするように試みる。少なくとも解剖学と生理学は実行したい。</li> <li>小テストの解説も、オンデマンド形式でアップする事を考えている。</li> <li>授業の最初に、独自で作成した解剖学ノートの活用法を解説する。</li> <li>授業の最初に本日の授業項目を提示して、学生達の学習の目安にしたい。</li> <li>試験問題の出題傾向と項目の正答率を分析して、来年度に向けて学生達の理解度の低い項目は、より丁寧に授業する指標とする。</li> </ul>

【基礎医学講座】

令和4年度	生理学ユニット		PLAN（計画）の内容：		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科での国家試験出題基準に沿った教科書を選定。</li> <li>各教科書に沿った内容を理解させるために、各分野ごとに内容を細分化。</li> <li>各分野に細分化した内容で講義資料を作成。</li> <li>復習を確実にするために、分野ごとに確認小テストの実施と解説の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスに沿って各分野ごとに授業を実施。</li> <li>分野ごとに4択形式の確認小テストにて理解度を評価し、フィードバックとして理解度を深めさせるために問題ごとの解説を実施。</li> <li>4択形式の期末試験にて科目全体の理解度を評価。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>確認小テストの解説は、学科によって異なり、対面の形式と動画を視聴するオンデマンド形式のどちらかで実施。</li> <li>内容の理解度を各分野ごとに確認小テストの正答率にて確認。</li> <li>理解度の評価を期末試験の各問題の正答率にて確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正答率の低い内容を学生の理解度が低い、もしくは苦手な内容として把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面形式の確認小テストの解説でも、動画視聴のオンデマンド形式での学習を追加。</li> <li>正答率が低い内容について、より理解を深めさせるために講義資料を改善。</li> </ul>

【基礎医学講座】

令和4年度	免疫微生物学ユニット		PLAN（計画）の内容：ヒトの健康に影響する要因や衛生・公衆衛生の理解を深める。		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
P：目標を実現するための具体的な方法を考える	D:計画を実行しその効果を測定する。	計画実施率（%）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由／課題／根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に影響する要因を項目ごとに解説し理解させる。</li> <li>衛生・公衆衛生について保健活動を分野ごとに解説し理解させる。</li> <li>授業ごとの振り返りの習慣をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目・分野について、用語の説明や具体例を挙げながら解説する。</li> <li>各講義ごとにまとめる項目を示し要点をまとめさせる。</li> <li>確認問題に回答させ、正誤をフィードバックする。</li> <li>前回の講義内容に関する小テストを行いその都度解答・解説する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語の説明や具体例を挙げた解説はおおむね実施できた。</li> <li>各講義ごとのまとめは自主学習の指示のみで実施の確認はしていない。</li> <li>確認問題はおおむね回答していることを確認。</li> <li>小テストはおおむね回答していることを確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験の合格率（単位取得率）は95%以上。</li> <li>自主学習（まとめ）の実施状況の確認</li> <li>小テストの正解率が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに単位修得率を上げるために、自主学習（まとめ）の実施状況を把握する（レポート提出など）、確認問題の未回答者とともに、個別連絡などによりこまめに自主学習を促す。</li> </ul>

【基礎医学講座】

令和4年度	病理学ユニット		PLAN（計画）の内容：病気の成り立ちの理解		
PLAN（計画）	DO（実行）		CHECK（評価）		ACTION（次への改善）
<p>P：目標を実現するための具体的な方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科での国家試験出題基準に沿った教科書の選定</li> <li>出題基準各項目において理解の助けとなる講義資料作成</li> <li>身体の正常な構造・機能からの逸脱である「疾患」は「他人事」ではなく実は「身近なもの」であると理解させる。</li> <li>アナロジー、メタファーなどを用いて、医療の初学者でも実感できるような「例え話」を織り込みながら、それを病理学の理論につなげて理解させる。</li> <li>病理検査や検体採取に使用する器具や臓器などを用いたり、とある症状から端を欲してどのように検査が行われ診断されるかをストーリーに仕立て病理診断や治療までの流れを理解させる。</li> </ul>	<p>D:計画を実行しその効果を測定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書及び事前配布PPTを参考に講義前に予習課題を作成</li> <li>講義時間最後に国試過去問を用いた確認問題にて理解度を確認</li> <li>講義時間初めに前回の確認問題を改変した小テストを行い知識定着</li> <li>確認問題や小テストを用いた解説ノート作成</li> <li>解説ノートの作り方を小テストの解説時に行い、改変された問題でも解答できるような方法を指導</li> <li>リアクションペーパーにて疑問点・改善点を抽出し、メリーで回答する。または次回講義内容に反映する。</li> </ul>	<p>計画実施率（%）</p>	<p>C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義時間初めに前回の確認問題を改変した小テストを行って改変部分等を含め丁寧に解説をした。学生には評判が良いものの時間が結構かかるので、授業が押すのが難点。</li> <li>メリーでのリアクションペーパーの返答は質問した本人以外にも疑問点の解消につながった。</li> <li>解説ノートの作り方や4択問題を使った勉強方法などは好評だった。</li> </ul>	<p>評価の理由／課題／根拠データ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>質問に来る学生が自分の解説ノートを手にとってきたり、問題を解く考え方についての質問などが増えている。</li> </ul>	<p>A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次へのPLANへ繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容の強弱・メリハリをつけないと時間内にうまくおさまらない。</li> <li>質問に来る学生が自分の解説ノートを手にとってきたり、問題を解く考え方についての質問などが増えてはいるものの、なかなかその考え方とか方法が皆には浸透しない。その子にあった方法を見つける手助けをするなどの改善が必要。</li> <li>学力高い学生とそうではない学生にどう対応するか考えることが必要。</li> </ul>